

TA8となる交通量区分N<sub>1</sub>（設計CBR4以下）及びN<sub>2</sub>（設計CBR8）  
における標準舗装断面構成

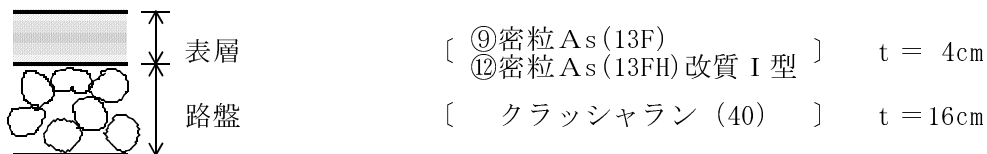
TA8となる交通量区分N<sub>1</sub>（設計CBR4以下）及びN<sub>2</sub>（設計CBR8）について標準舗装断面構成を設定する。ただし、TA7については、別途検討が必要。

- 交通量区分N<sub>1</sub>（舗装計画交通量15台未満/日・方向）
  - 交通量区分N<sub>2</sub>（舗装計画交通量15～40台未満/日・方向）
- 信頼性50%

交通量区分	設計CBR	表層	上層路盤		下層路盤	合計厚 cm	T <sub>A</sub> ' (T <sub>A</sub> )
		加熱アスファルト混合物	瀝青安定処理	粒度調整 砕石	クラッシュ シャーラン		
N <sub>1</sub>	3, 4	4	-	-	16	20	8.00
N <sub>2</sub>	8						(8)

(注) ( ) は表-3.1に記載された目標値である。

【T < 15 及び 15 ≤ T < 40 標準断面図】



(注) 表層に用いるアスファルト混合物は、一般には⑨密粒As(13F)、縦断勾配6%を超える箇所・消融雪施設設置箇所・橋面では⑫密粒アスコン(13FH)改質I型を採用する。

第1種、第2種、第3種第1級及び第2級並びに第4種第1級の道路は、⑫密粒度アスコン(13FH)改質II型を使用する。

○標準舗装断面構成の設定について

・従来「簡易舗装」に分類されてきた計画交通量40(台/日・方向)未満の舗装に関して、TA法による設計方法に統合されたことから、舗装新設(改築)の場合にあってはTA計算による舗装構成を適用する。

・表層厚は舗装設計便覧(平成18年2月)における4cmを採用し、路盤厚は歩道路盤以上の厚さを確保しつつ、未舗装道路の市町村道取付舗装のTA8を満足する舗装構成として16cmとした。

ただし、舗装設計便覧ではTAの最小値を7に設定していることから、TA7の舗装断面構成については、別途検討が必要となる。